

地域医療構想策定に係る課題抽出の取組

(地域医療構想策定ガイドラインより抜粋)

- 地域の医療提供体制の現状を把握し、地域医療構想を実現する上での課題を抽出することが重要。
- 課題を抽出するにはレセプトデータや消防庁などのデータを有効に利活用。
- 抽出した課題を解決するためには、地域医療構想調整会議に参加する関係者等で、データを基に認識を共有し、十分な議論を行うことが重要。

ア) 病床機能報告による現状と地域医療構想における必要病床数との比較

⇒ 病床の機能の分化及び連携について、まずは病床機能報告制度によって、各医療機関が担っている病床の機能の現状を把握・分析する。

- (1) 将来の医療需要を推計 ⇒ 地域医療構想策定支援ツール(必要病床推計ツール)を活用
- (2) 現時点と将来の医療需要との比較 ⇒ 病床機能報告制度を活用し上記と比較

イ) 病床の機能区分ごとにおける構想区域内の医療機関の状況の把握

⇒ 主な疾患(がん、脳卒中、心筋梗塞等)に対応できる医療機関の分布や、提供されている医療の内容に関する情報など、資料やデータに基づき検討

- (1) 各医療機関の診療実績 ⇒ DPCデータを活用(事例1)
- (2) 患者の流出入の状況 ⇒ 二次医療圏別のNDB・DPCデータを活用(事例2)
- (3) 患者の医療機関へのアクセス状況 ⇒ 消防庁のデータ等を活用(事例3-1、3-2)
- (4) 全国と県全体または二次医療圏別の診療実績比較 ⇒ 年齢調整標準化レセプト出現比を活用(事例4)